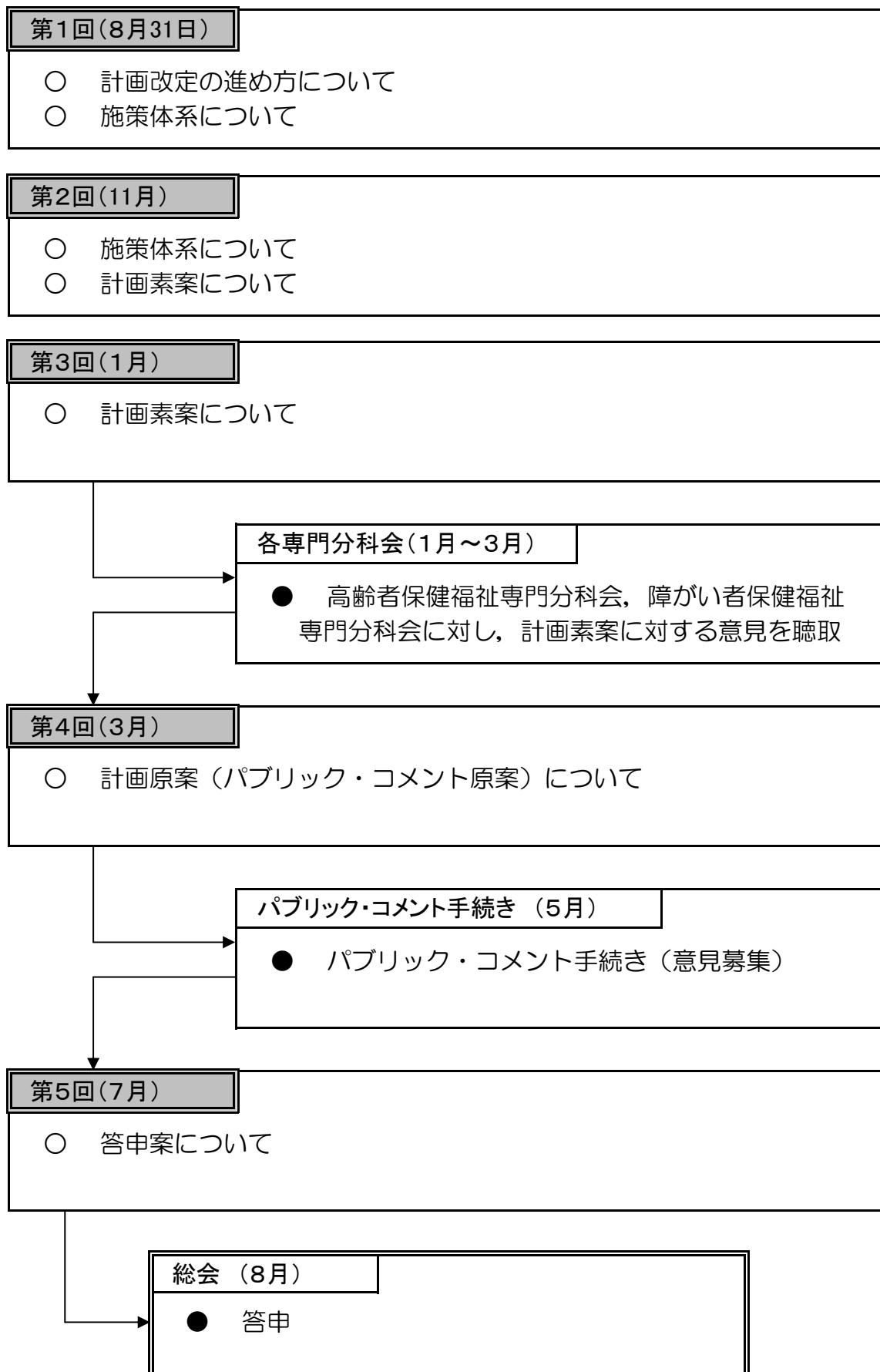


地域保健福祉専門分科会における今後の審議の進め方（案）



(抜粋)

平成 21 年度

市政に関する意識調査

平成 21 年度

福岡市

目 次

調査の概要	2
1 調査の目的	2
2 調査項目	2
3 調査の性格	2
4 意識調査回答者の構成	3
5 調査結果利用上の注意	5
6 適合度の検定	5
7 調査票及び調査結果	6
調査結果の総括	19
1 健康に関する意識と行動，対象者に関する健康・福祉の状況	19
2 近所関係と健康・福祉	20
3 地域で行われていることへの認知度と参加状況	21
4 悩みや不安	22
5 行政に求められていること，行政サービスの認知状況	23
6 総括	24
調査結果の詳細分析（抜粋）	25
1 健康に関する意識と行動，対象者に関する健康・福祉の状況	25
(1) 健康に関する意識	25
(2) 過去5年間における健康診断などの受診状況	27
(3) 健康診断などを受診しない理由	30
(4) 健康・医療・福祉に関する情報源	34
(5) 土日祝日や夜間の高熱に対する対応	36
2 近所関係と健康・福祉	39
(1) 近所との関係	39
(2) 近所づきあいの満足度	42
(3) 近所づきあいの今後の意向	45
(4) 過去1年間における近所の人への協力について	46
(5) 近所の人に対して，今後協力できること	52
(6) 近所の人から協力してほしいこと	56
3 地域で行われていることへの認知度と参加状況	60
(1) 地域での助け合い，支え合い活動への参加状況について	60
(2) 地域での助け合い，支え合い活動への今後の参加意向	63
(3) 福祉活動の参加・認知度	67
(4) 地域団体の利用度・認知度	70
(5) 悩みや不安について	75
(6) 相談相手	80
(7) 今後，福岡市が力を入れて取り組むべき施策	83
(8) 「ユニバーサルデザイン」の認知状況	88
(9) 健康・医療・福祉サービスの水準と税金のバランスについて	90
(10) 65歳以上の同居人の有無	93
(11) 介護を必要とする家族の有無	96

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、市民の市政についての意見や評価を、科学的、統計的に把握し、今後の市政を推進する上での基礎資料にするもの。

2 調査項目

日ごろの暮らしや保健福祉について

3 調査の性格

(1) 調査地域

福岡市全域

(2) 調査対象者

福岡市内に居住する満20 歳以上の男女

(3) 調査対象者数

4,500 サンプル (回収2,633 サンプル , 回収率58.5%)

(4) 抽出方法

住民基本台帳および外国人登録台帳による二段階無作為抽出法

(5) 調査方法

郵送法

(6) 調査期間

平成21 年 8月19 日 (水) から 9月1 日 (火)

(7) 調査主体

福岡市役所 市長室広聴課

(8) 調査実施機関

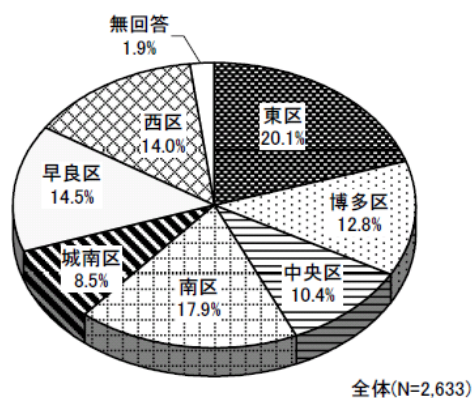
株式会社西日本リサーチ・センター

(9) 調査結果分析 総括執筆・各論監修

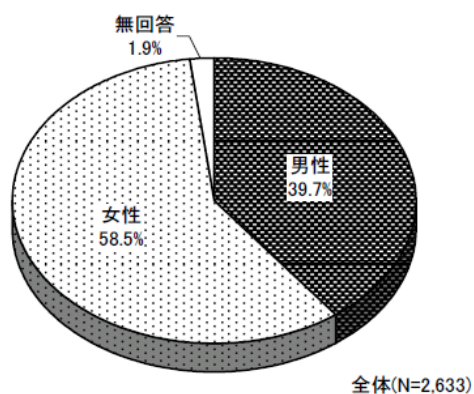
調査項目 2 . N P O法人福岡ジェンダー研究所 倉富 史枝

4 意識調査回答者の構成

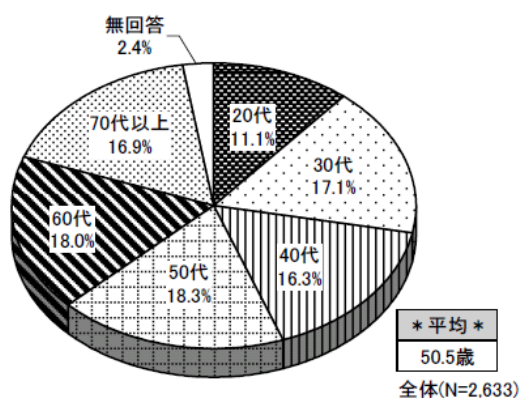
<行政区別>



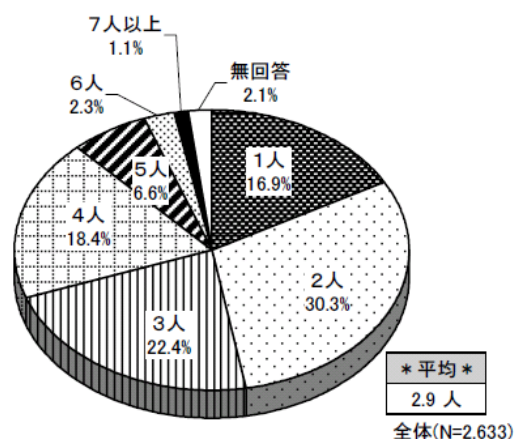
<性別>



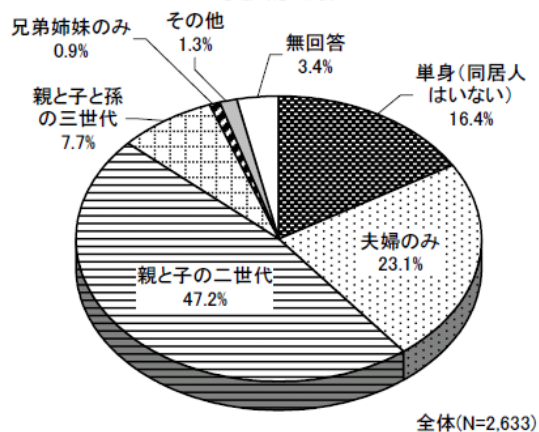
<年代別>



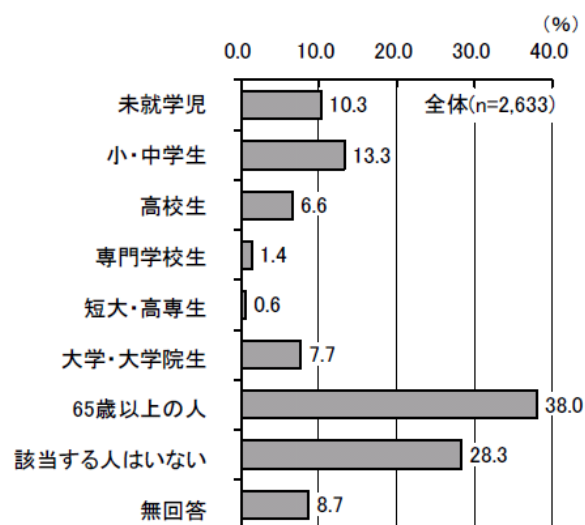
<家族数別(同居)>



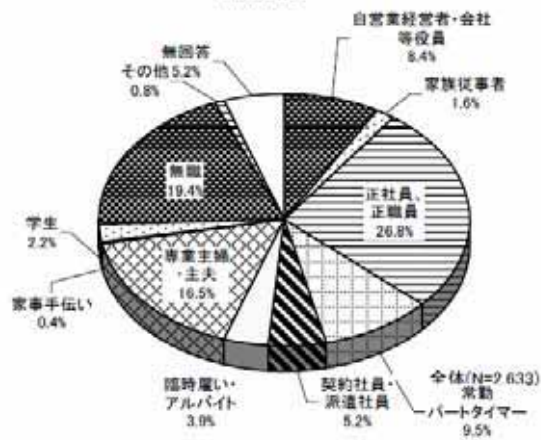
<家族構成別>



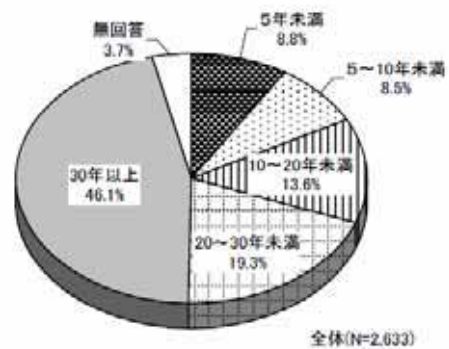
<同居している家族>



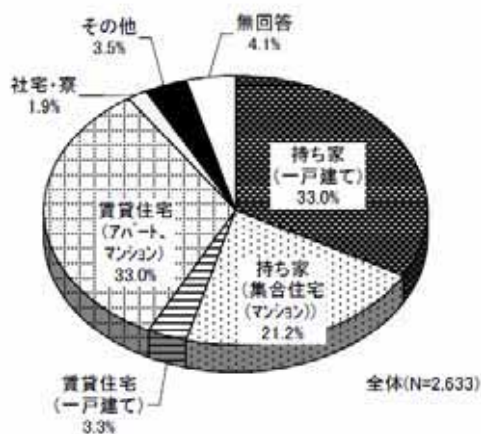
<職業別>



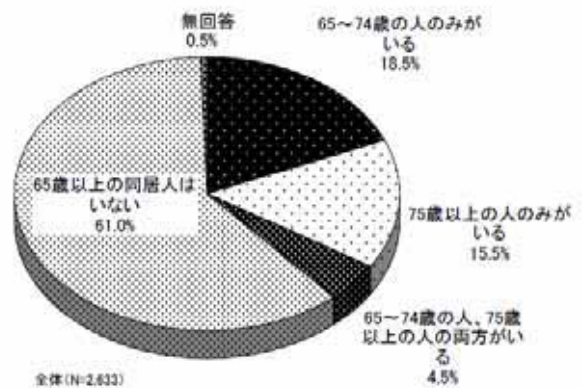
<居住年数別>



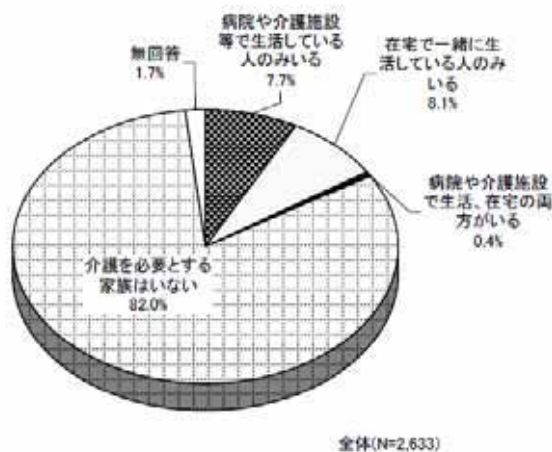
<住居形態別>



<65歳以上の同居家族の有無別>



<介護が必要な家族の有無別>



5 調査結果利用上の注意

- (1) 単数回答の集計については、設問ごとに無回答の項目を設けて、これを含めた全体の基数（標本数）を100%としている。なお、回答率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、数表、図表に示す回答率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の集計については、項目別に、基数（標本数）に対するその項目を選んだ回答者の割合としている。従って、数表、図表に示す各項目の回答率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示すN、nは、回答率算出上の基数（標本数）である。
$$N = \text{標本全数} \quad n = \text{該当数（その質問を回答しなくてよい人を除いた数）}$$
- (4) 数表、図表に示す選択肢はスペースの関係で文言を短縮して表記している場合があるので、詳細は巻末の調査票を参照のこと。
- (5) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち、2つ以上のものを合計して表す場合は『 』としている。
- (6) 2つ以上の選択肢を合計して表している比率については、各選択肢の基数（標本数）の合計をもとに算出しているため、選択肢個々の回答比率の合計とは、必ずしも同じにならない場合がある。

6 適合度の検定

本調査の標本は無作為抽出法により抽出されているため、調査結果は調査対象集団（母集団）の縮図になっているはずである。しかしながら、調査の過程で標本の一部には回答を得られなかったものもあり、場合によっては調査対象集団（母集団）の縮図にならないこともあり得る。

そこで、得られた対象集団が調査対象集団（母集団）の縮図とみなすことができるかどうか、適合度の検定を行ったところ、行政区別の構成比については有意差がないと判断されるものの、性別、年代別の構成比については有意差がある（期待値に比べて女性の割合が多い。また、期待値に比べて20代、30代の割合が小さく、50代、60代の割合が大きい。）と判断される結果となった。

今回の調査結果については、この検定内容を踏まえた上での考察であるため、予め注意する必要がある。

7 調査票及び調査結果

市 政 に 関 す る 意 識 調 査 (N=2,633)

平成21年8月
福岡市

【記入上の注意】

1. 必ずご本人（封筒の宛名の方）がお答えください。
2. この調査は無記名で行い、ご回答の内容については「このようなご意見の方は全体の何%」という形で、統計数値として集計いたしますので、皆様のご意見を個人が特定されるような形で発表することは一切ございません。安心してご回答ください。
3. 各質問のご回答は、特に説明がないかぎり、あてはまる項目の番号に○をおつけください。質問文に「1つ」、「すべて」など指定がある場合は、その指定に従ってお答えください。
4. 質問によっては回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や案内にそってお答えください。
5. 「その他」を選ばれたときは、お手数ですがその内容を（ ）の中に具体的に記入してください。

【アンケート票の回収について】

アンケート票は、記入後、同封しております封筒（切手不要）に入れて、9月1日（火）までに郵便ポストに投函してください。

【問い合わせ先】

福岡市 市長室 広聴課

住所：中央区天神1-8-1

TEL：711-4067

FAX：733-5580

MAIL：

kocho.MO@city.fukuoka.lg.jp

《福岡市の住みやすさについておうかがいします》

問1. 総合的にみて、福岡市は住みやすいと思いますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つだけ) [N=2,633]

1 住みやすい 50.2	3 どちらかといえば住みにくい 4.5
2 どちらかといえば住みやすい 40.0	4 住みにくい 1.6
	5 わからない 2.3 無回答 1.4

問2. 以下の福岡市の都市環境等についてどの程度満足していますか。もしくは不満がありますか。アからツまでのそれぞれについてあてはまるものを選び、番号に○をつけてください。

(○はそれぞれ1つだけ) [N=2,633]

		満足している	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満がある	わからない	無回答
(例) ア. ○○○○○○		1	2	3	4	5	
ア. 自然環境の豊かさ	⇒	21.5	53.0	15.0	4.4	2.3	3.9
イ. 住宅事情	⇒	15.7	50.0	19.4	6.8	5.0	3.2
ウ. 交通の便	⇒	29.7	41.3	17.1	8.9	0.7	2.3
エ. 買い物の便利さ	⇒	37.1	48.7	8.1	3.2	0.5	2.3
オ. 物価の安さ	⇒	9.0	50.6	25.0	6.7	5.6	3.1
カ. 新鮮でおいしい食べ物の豊富さ	⇒	35.0	50.3	8.1	1.9	2.1	2.5
キ. 芸術・文化水準	⇒	12.9	49.4	15.8	4.8	13.7	3.4
ク. 教育環境	⇒	8.5	43.1	19.0	8.0	18.2	3.3
ケ. 子育てのしやすさ	⇒	5.7	35.8	19.3	6.8	28.2	4.2
コ. 就業機会の多さ	⇒	2.2	23.3	31.7	17.6	20.5	4.7
サ. 医療機関の充実	⇒	12.5	51.7	19.1	8.1	5.7	3.0
シ. 福祉の充実	⇒	3.7	29.3	27.1	13.0	23.6	3.3
ス. 人の親切や人情味	⇒	12.4	55.3	17.7	4.6	6.9	3.0
セ. 地域住民の連帯感の強さ	⇒	6.1	36.4	27.3	8.9	18.0	3.3
ソ. 自然災害の少なさ	⇒	10.6	48.3	21.9	7.6	8.9	2.8
タ. 犯罪の少なさ	⇒	2.9	20.8	34.6	29.1	9.6	3.1
チ. 市民のマナー	⇒	1.6	23.7	39.5	25.8	6.5	2.9
ツ. レジャー・レクリエーション施設の充実	⇒	5.2	41.9	26.7	9.0	14.6	2.6

問3. あなたは、事情が許せば福岡市にずっと住み続けたいと思いますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つだけ) [N=2,633]

1 住み続けたい 60.9	3 どちらかといえば移りたい 4.6
2 どちらかといえば住み続けたい 29.2	4 移りたい 0.8
	5 わからない 2.9
	無回答 1.6

《日ごろの暮らしや保健福祉についておうかがいします》

福岡市では、市民一人ひとりが地域社会を構成する一員としての自覚を持ち、共に支え合い助け合い、全ての市民が住み慣れた家庭や地域で安心して暮らせる“健康福祉社会”の実現を目指しています。

この調査では、日ごろの暮らしや保健福祉に関することについて市民の皆様のご意見をお伺いし、今後の地域社会における保健福祉施策を推進するうえでの参考とさせていただきますので、ご協力をお願いします。

問4. あなたは、過去5年間に、以下のアからウまでの健康診断などを受けたことがありますか。あてはまるものを選び、番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つだけ) [N=2,633]

	定期的に受けている	受けたことがある	受けたことがない	無回答
ア. 特定健診・特定保健指導（メタボ健診） ⇒	29.1	22.2	45.1	3.6
イ. がん検診 ⇒	12.5	26.1	55.0	6.4
ウ. 健康教室 ⇒	3.3	13.9	74.4	8.3

1 つでも「受けたことがない」に○をつけた方は問 4-1 へ

問4-1. (問4で1つでも「受けたことがない」と回答した方へ)

健康診断などを受けない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。(○はいくつでも) [n=2,128]

1 健康診断などがあることを知らない 11.1
2 健康診断などがあることは知っているが、必要ない 16.3
3 健康診断などがあることは知っているが、手続きがわからない 15.0
4 健康診断などがあることは知っているし、手続きも知っているが、時間帯や場所があわず、受けていない 34.6
5 その他（具体的に： ） 16.0
無回答 13.8

問5. 健康・医療・福祉に関する情報をどこから(だれから)得ていますか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。(○はいくつでも) [N=2,633]

- 1 市政だより 75.4
- 2 市のパンフレットやチラシ、ポスター等 26.2
- 3 区役所や各区保健福祉センター(保健所や福祉事務所)、いきいきセンターふくおかなど市の窓口 7.4
- 4 インターネット(市のホームページなど) 11.8
- 5 市・区社会福祉協議会の広報紙、パンフレット等 9.8
- 6 区社会福祉協議会や区ボランティアセンターの窓口 0.9
- 7 町内会などの回覧板・掲示板 39.0
- 8 公民館の案内掲示板・公民館だより 14.5
- 9 民生委員・児童委員 2.1
- 10 NPO^(※1)、ボランティア団体等 1.2
- 11 家族、親族 23.0
- 12 友人、知人 26.2
- 13 テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 35.5
- 14 病院、薬局、福祉施設等 24.3
- 15 ホームヘルパー、訪問看護師、ケアマネージャー等 3.6
- 16 講演会、講習会、研修会、出前講座等 3.9
- 17 その他(具体的に:) 0.9
- 18 特にない 4.7

無回答 1.0

(※1) NPOとは、医療、福祉、環境、まちづくり、文化・芸術などのあらゆる分野で営利を目的とせず公益的活動を行う団体です。

問6. 日ごろ、健康であると感じていますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つだけ) [N=2,633]

- 1 健康である 22.7
- 2 どちらかといえば健康である 55.8
- 3 どちらかといえば健康ではない 13.9
- 4 健康ではない 6.6

無回答 0.9

問7. あなたが土日祝日や夜間に、39 度を超える高熱が出た場合、どうしますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つだけ) [N=2,633]

- | | | |
|---------------------------------|------|---------|
| 1 医療機関には受診せず、様子を見る、または市販薬等で対応する | 42.1 | |
| 2 急患診療センター・急患診療所を受診する | 25.6 | |
| 3 土日祝日や夜間に診療を行う最寄りの医療機関を受診する | 22.6 | |
| 4 救急車を呼ぶ | 6.5 | |
| 5 その他(具体的に:) | 2.0 | 無回答 1.1 |

問8. 普段、生活するうえで、どのような悩みや不安を感じていますか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。(○はいくつでも) [N=2,633]

- | | | | |
|-----------------|------|----------------------|---------|
| 1 自分や家族の健康のこと | 65.3 | 8 学業や進学のこと | 9.1 |
| 2 自分や家族の老後のこと | 68.6 | 9 住宅のこと | 20.5 |
| 3 生きがいに関すること | 16.9 | 10 防犯や地域の治安のこと | 28.1 |
| 4 子育てに関すること | 17.1 | 11 災害時の備えに関すること | 28.7 |
| 5 近所づきあいに関すること | 8.4 | 12 人権問題(差別や偏見)に関すること | 3.6 |
| 6 収入や家計など経済的なこと | 59.4 | 13 その他(具体的に:) | 1.4 |
| 7 雇用や就職のこと | 27.0 | 14 特になし | 2.7 |
| | | | 無回答 1.0 |

問9. 悩みや不安について、主にどこに(だれに)相談していますか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。(○はいくつでも) [N=2,633]

- | | |
|--|---------|
| 1 家族 | 76.9 |
| 2 近所の人 | 5.6 |
| 3 友人・知人・同僚 | 57.8 |
| 4 町内会・自治協議会等の役員 | 1.2 |
| 5 民生委員・児童委員 | 1.5 |
| 6 区役所や各区保健福祉センター(保健所や福祉事務所)、いきいきセンターふくおかなど市の窓口 | 3.7 |
| 7 市・区社会福祉協議会 | 1.0 |
| 8 NPOやボランティア | 0.6 |
| 9 かかりつけの病院(医師・看護師等)、薬局(薬剤師) | 18.6 |
| 10 弁護士など有料のサービス | 1.9 |
| 11 その他(具体的に:) | 0.5 |
| 12 相談しない | 5.2 |
| 13 相談相手はいない | 2.5 |
| 14 悩みや不安はない | 0.9 |
| | 無回答 0.8 |

問 10. ご近所の方との関係は、次のどれに近いですか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つだけ) [N=2,633]

- | | | |
|-----------------------|------|---------|
| 1 何か困ったときに助け合う親しい人がいる | 19.3 | |
| 2 たまに家を訪問しあう人がいる | 7.9 | |
| 3 立ち話をする程度の人ならいる | 26.3 | |
| 4 あいさつをする程度の人ならいる | 29.7 | |
| 5 ほとんど付き合いはない | 15.9 | 無回答 0.8 |

問 11. 今の近所づきあいに満足していますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つだけ) [N=2,633]

- | | | |
|------------------|------|---------|
| 1 満足している | 15.7 | |
| 2 どちらかといえば満足している | 40.9 | |
| 3 どちらかといえば不満がある | 13.3 | |
| 4 不満がある | 5.3 | |
| 5 どちらともいえない | 24.0 | 無回答 0.8 |

問 12. 近所づきあいをしたいとお考えですか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つだけ) [N=2,633]

- | | | |
|-----------------|------|---------|
| 1 したい | 18.4 | |
| 2 どちらかといえばしたい | 32.9 | |
| 3 どちらかといえばしたくない | 16.3 | |
| 4 したくない | 4.6 | |
| 5 どちらともいえない | 26.9 | 無回答 1.0 |

問 13. 近所の人に対して、過去1年の間に、どのような協力をしたことがありますか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。(○はいくつでも) [N=2,633]

- | | | | |
|----------------------|------|-----------------|---------|
| 1 声かけや安否確認 | 26.9 | 7 電球の取替えなどの軽い作業 | 3.1 |
| 2 ゴミだし | 9.4 | 8 子どもの預かり | 4.8 |
| 3 買い物 | 4.8 | 9 子育ての相談 | 4.6 |
| 4 室内の掃除や食事づくり等の家事 | 1.6 | 10 その他(具体的に:) | 3.5 |
| 5 庭木の手入れや草取り等の屋外の掃除 | 9.5 | 11 したことがない | 52.0 |
| 6 外出時(通院・行事など)の同行や送迎 | 4.4 | | 無回答 2.3 |

問 14. 近所の人に対して、今後、あなたが協力できることがありますか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。(○はいくつでも) [N=2,633]

- | | |
|--------------------------|---------|
| 1 声かけや安否確認 59.7 | |
| 2 ゴミだし 25.7 | |
| 3 買い物 16.9 | |
| 4 室内の掃除や食事づくり等の家事 3.8 | |
| 5 庭木の手入れや草取り等の屋外の掃除 14.2 | |
| 6 外出時(通院・行事など)の同行や送迎 9.8 | |
| 7 電球の取替えなどの軽い作業 18.6 | |
| 8 子どもの預かり 9.5 | |
| 9 子育ての相談 10.4 | |
| 10 その他(具体的に:) 1.1 | |
| 11 特になし 25.1 | 無回答 3.5 |

問 15. 近所の人から、協力してほしいことがありますか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。(○はいくつでも) [N=2,633]

- | | |
|--------------------------|---------|
| 1 声かけや安否確認 22.7 | |
| 2 ゴミだし 3.9 | |
| 3 買い物 2.5 | |
| 4 室内の掃除や食事づくり等の家事 1.2 | |
| 5 庭木の手入れや草取り等の屋外の掃除 4.1 | |
| 6 外出時(通院・行事など)の同行や送迎 2.4 | |
| 7 電球の取替えなどの軽い作業 2.4 | |
| 8 子どもの預かり 4.4 | |
| 9 子育ての相談 5.1 | |
| 10 その他(具体的に:) 0.9 | |
| 11 特になし 63.3 | 無回答 4.7 |

問 16. 住民参加による地域での助け合い、支え合い活動(町内会などが実施する防犯、防災、環境美化などの活動、その他ボランティア)に参加していますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つだけ) [N=2,633]

- | | |
|--------------------------|---------|
| 1 参加している 13.9 | |
| 2 たまに参加している 17.1 | |
| 3 ほとんど参加していない 14.4 | |
| 4 参加していない 36.7 | |
| 5 そのような活動があることを知らない 15.2 | 無回答 2.7 |

問 17. 今後住民参加による地域での助け合い、支え合い活動(町内会などが実施する防犯、防災、環境美化などの活動、その他ボランティア)が行われる場合、どのように関わりたいとお考えですか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つだけ) [N=2,633]

1 参加したい	8.1	
2 機会があれば参加したい	54.7	
3 どちらかといえば参加したくない	23.4	
4 参加したくない	10.3	無回答 3.5

問 18. 以下の地域で行われている福祉活動について、過去1年の間に、聞いたり活動に参加したりしたことはありますか。ア・イのそれぞれについてあてはまるものを選び、番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つだけ) [N=2,633]

		参加したことがある	が、参加したことは無いが、内容は知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	聞いたことがない	無回答
ア. ふれあいネットワーク活動(※1)	⇒	2.8	10.9	22.7	58.9	4.6
イ. ふれあいサロン活動(※2)	⇒	3.0	11.9	21.0	58.5	5.6

(※1) ふれあいネットワーク活動とは、地域住民(ボランティア)が各保健福祉関係機関と連携しながら、地域の課題を発見し、話し合い、解決していく小地域での地域福祉活動です。主な内容は、生活支援を必要とする高齢者や障がい者などを必要に応じて訪問し、見守り等の支え合い活動を行います。

(※2) ふれあいサロン活動とは、地域住民(ボランティア)と家に閉じこもりがちな高齢者・障がい者などが、公民館や集会所などで行う仲間作りの交流活動です。主な内容は月に1回から4回、健康チェックやレクリエーションなどを行います。

問 19. 以下の地域の団体等について、過去1年の間に、聞いたり利用したりしたことはありますか。
アからケのそれぞれについてあてはまるものを選び、番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つだけ) [N=2,633]

		利用したことがある	利用したことはないが、内容は知っている	内容は知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答
ア. 市・区社会福祉協議会	⇒	3.0	15.2	40.5	35.9	5.4
イ. 校区社会福祉協議会	⇒	1.8	13.5	32.9	45.9	5.9
ウ. 市・区ボランティアセンター	⇒	1.3	13.1	35.8	43.1	6.8
エ. あんしん生活支援センター ^(※1)	⇒	0.3	7.6	25.3	59.9	6.9
オ. いきいきセンターふくおか ^(※2) (地域包括支援センター)	⇒	1.9	9.0	27.3	55.1	6.6
カ. NPO・ボランティア交流センター (通称「あすみん」) ^(※3)	⇒	0.8	7.7	32.5	52.1	6.9
キ. 食生活改善推進員協議会	⇒	0.6	8.0	21.6	62.0	7.7
ク. 民生委員・児童委員	⇒	2.7	39.0	33.3	19.3	5.7
ケ. シルバー人材センター	⇒	7.6	47.3	29.1	10.9	5.1

(※1) あんしん生活支援センター活動とは、判断能力が不十分な人を対象に、福祉サービス利用援助や、日常金銭の管理などを有料で行う窓口で、市民福祉プラザ(ふくふくプラザ)4階にあります。

(※2) いきいきセンターふくおかとは、高齢者が住み慣れた地域で、安心してその人らしく暮らし続けることができるように、健康や福祉、介護などに関する相談を受けたり、その人の身体状況に最も適したアドバイスを行うなど高齢者が自立した生活を続けていくことができるよう応援するセンターで、市内39箇所に設置されています。

(※3) NPO・ボランティア交流センター(通称「あすみん」とは、市民主体のまちづくり実現のため、NPOやボランティア活動をはじめとする様々な市民公益活動の情報・交流の拠点として設置された施設で、市立青年センター5階にあります。

問 20. 今後、福岡市では、住みやすいまちをつくるために、健康・医療・福祉の分野において、どのような施策に特に力を入れて取り組むべきだと思いますか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。(○はいくつでも) [N=2,633]

- | | |
|---|---------|
| 1 保健・福祉・医療に関する情報提供や案内の充実 | 65.9 |
| 2 身近なところでの相談窓口の充実 | 38.6 |
| 3 施設や道路など公共の場のバリアフリー化 ^(※1) の推進 | 37.8 |
| 4 高齢者・障がい者になっても自宅で生活が続けられるサービスの充実 | 63.3 |
| 5 健康づくり活動や健康教育の充実 | 21.7 |
| 6 NPO・ボランティア活動等の活性化 | 14.5 |
| 7 災害時などに地域で助け合う体制づくり | 48.0 |
| 8 その他(具体的に:) | 2.6 |
| 9 現状のままでよい | 1.5 |
| 10 特になし | 2.5 |
| | 無回答 2.6 |

(※1)バリアフリー化とは高齢者や障がい者などの生活行動に障がいとなるものを排除した環境のことです。

問 21. 「ユニバーサルデザイン^(※1)」についてどの程度知っていますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つだけ) [N=2,633]

- | | |
|--------------------------------|---------|
| 1 言葉の意味、具体的な取り組み事例を知っている | 10.9 |
| 2 言葉の意味は知っているが、具体的な取り組み事例は知らない | 22.6 |
| 3 聞いたことはあるが、意味は知らない | 20.9 |
| 4 聞いたこともなく、意味も知らない | 43.3 |
| | 無回答 2.4 |

(※1)ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、障がいの有無、国籍などの違いに関わらず、できるだけ多くの人が利用しやすいように製品・建物・都市・生活環境などをデザインすることです。

問 22. 福岡市が提供する健康・医療・福祉サービスの水準と、その財源として市民が負担する税金などのバランスについて、あなたのお考えに最も近いのは、次のどの意見ですか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つだけ) [N=2,633]

- | | |
|-------------------------------|---------|
| 1 負担が増えても、サービスの維持・充実に努めるべきである | 16.5 |
| 2 負担は現状維持のまま、サービスの内容を見直すべきである | 70.8 |
| 3 負担が減るよう、サービスを縮小・廃止すべきである | 5.6 |
| 4 その他(具体的に:) | 2.7 |
| | 無回答 4.4 |

問 23. 現在同居しているご家族に 65 歳以上の方はいますか(あなたご自身も含みます)。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。(○はいくつでも) [N=2,633]

- | | | |
|----------------|------|---------|
| 1 65～74 歳の人がある | 23.1 | |
| 2 75 歳以上の人がある | 20.0 | |
| 3 いない | 61.0 | 無回答 0.5 |

問 24. ご家族(あなた自身は含みません)に、高齢や障がい等のために、介護を必要とする方はいますか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

[N=2,633]

- | | | |
|-----------------------|------|---------|
| 1 いる(病院や介護施設等で生活している) | 8.2 | |
| 2 いる(在宅で一緒に生活している) | 8.5 | |
| 3 いない | 82.0 | 無回答 1.7 |

(中略 問 25～問 29 は、交通局 IC カード「はやかけん」についての調査)

最後に、あなたやあなたのご家族のことについておたずねします

問 30 .あなたの性別は [N=2,633]

- | | | | | | |
|------|------|------|------|-----|-----|
| 1 男性 | 39.7 | 2 女性 | 58.5 | 無回答 | 1.9 |
|------|------|------|------|-----|-----|

問 31 .あなたの年齢は [N=2,633] 平均 51.8 歳

問 32 .あなたの家族数(同居人数)は、あなたを含めて何人ですか。(○は1つだけ) [N=2,633]

- | | | | | |
|------|------|--------|-----|---------|
| 1 1人 | 16.9 | 5 5人 | 6.6 | |
| 2 2人 | 30.3 | 6 6人 | 2.3 | |
| 3 3人 | 22.4 | 7 7人以上 | 1.1 | |
| 4 4人 | 18.4 | | | 無回答 2.1 |

問 33 .家族構成は (○ は1つだけ) (N=2,633)

1 単身 (同居人はいない) 16.4	4 親と子と孫の三世代 7.7
2 夫婦のみ 23.1	5 兄弟姉妹のみ 0.9
3 親と子の二世代 47.2	6 その他 (具体的に:) 1.3
無回答 3.4	

問 34 .では,あなたの家族 (同居している方のみ)に次の方はいらっしゃいますか。あなたを含めてあてはまるものをすべて選び,番号に○をつけてください。(○はいくつでも) (N=2,633)

1 未就学児 10.3	5 短大・高専生 0.6
2 小・中学生 13.3	6 大学・大学院生 7.7
3 高校生 6.6	7 65 歳以上の人 38.0
4 専門学校生 1.4	8 1～7までに該当する人はいない 28.3
無回答 8.7	

問 35 .あなたのお住まいはどちらですか。(○ は1つだけ) (N=2,633)

1 東区 20.1	5 城南区 8.5
2 博多区 12.8	6 早良区 14.5
3 中央区 10.4	7 西区 14.0
4 南区 17.9	無回答 1.9

問 36 .あなたの職業は (○ は1つだけ) (N=2,633)

1 自営業経営者・会社等役員 8.4	7 専業主婦・主夫 16.5
2 家族従事者・家業手伝い 1.6	8 家事手伝い 0.4
3 正社員,正職員 26.8	9 学生 2.2
4 常勤パートタイマー 9.5	10 無職 19.4
5 契約社員・派遣社員 5.2	11 その他 (具体的に:) 0.8
6 臨時雇い・アルバイト 3.9	無回答 5.2

問 37 .あなたが福岡市に住んでいる年数は通算で何年になりますか。(○は1つだけ) (N=2,633)

1 5 年未満 8.8	4 20 年以上 30 年未満 19.3
2 5 年以上 10 年未満 8.5	5 30 年以上 46.1
3 10 年以上 20 年未満 13.6	無回答 3.7

問 38 .あなたのお住まいは (○は1つだけ) (N=2,633)

1 持ち家(一戸建て) 33.0	4 賃貸住宅(アパート, マンション) 33.0
2 持ち家(給付(マンション)) 21.2	5 社宅・寮 1.9
3 賃貸住宅(一戸建て) 3.3	6 その他(具体的に:) 3.5
	無回答 4.1

調査結果の総括

1 健康に関する意識と行動，対象者に関する健康・福祉の状況

- ・ 8 割近くの人自身が『健康である』と考えている。
- ・ 70 歳以上の年代では他の年代よりも『健康である』の割合が低く，高齢者の健康状態を維持するための取組みが必要である。
- ・ 過去 5 年において，健康診断などの『受診経験がある』人は，
特定健診・特定保健指導（メタボ健診）については過半数
がん検診は約 4 割
健康教室は約 2 割
- ・ 女性はがん検診，男性はメタボ健診の受診割合が高い傾向にある。
- ・ 正社員と比較して「契約社員・派遣社員」や「臨時雇い・アルバイト」といった立場の人は受診割合が低く，対象者の職場の健診体制や経済状況，時間的余裕等が原因として考えられるが，受診できない人の状況を配慮した健診の実施方法を検討する必要がある。
- ・ いずれの健康診断についても，受診していない人のうち，自分は『健康ではない』と意識している人の理由において，「手続き方法を知らない」割合が相対的に高く，情報が確実に届くような周知の方法を工夫する必要がある。
- ・ 健康や福祉に関する情報源は，「市政だより」や「町内会などの回覧板・掲示板」が利用される傾向にある。
- ・ インターネットを情報源とするのは比較的若い年代であるが，あらゆる年代の人が最新の情報を活用できるよう，テレビなどのマスメディアや，携帯電話などのパーソナルメディアを利用できる情報提供の方法を検討する必要がある。
- ・ 土日祝日や夜間に高熱が出たときの対応は，「医療機関には受診せず，様子を見る，または市販薬等で対応する」が約 4 割。
- ・ 土日祝日や夜間に高熱が出たときに「急患診療センター・急患診療所を受診する」と「土日祝日や夜間に診療を行う最寄りの医療機関を受診する」がともに 2 割台。
- ・ 土日祝日や夜間に高熱が出たときの対応では，70 歳以上では男女ともに「救急車を呼ぶ」割合が高い。
- ・ 単身や夫婦のみ世帯では，「土日祝日や夜間に診療を行う最寄りの医療機関を受診する」割合が高い。
- ・ 高齢者との同居状況として，『65 歳以上の同居人がいる』人は約 4 割で，持ち家や一戸建てに住む人の方が同居の割合は高い。

- ・『介護を必要とする家族がいる』人は約2割。
- ・三世代同居世帯，一戸建てに住む人で要介護家族がいる割合が高い。
- ・年代が高いほど要介護家族がいる割合は高い。
- ・夫婦のみ世帯で高熱時に「救急車を呼ぶ」割合が高いことを考え合わせると，老老介護の世帯では発熱が緊急事態になることも推測される。
- ・高齢者同居世帯や，要介護家族がいる世帯など，健康・福祉に関するサービスを必要とする可能性が高い世帯の人々に届くような施策を講じていくことが重要。

2 近所関係と健康・福祉

- ・近所との関係は，「あいさつをする程度の人ならいる」と「立ち話をする程度の人ならいる」が約3割，「何か困ったときに助け合う親しい人がいる」が約2割。
- ・男性は「ほとんど付き合いはない」割合がやや高く，女性は「何か困ったときに助け合う人がいる」割合が比較的高い。
- ・年代が高い方が，男女ともに「何か困ったときに助け合う親しい人がいる」割合は高い。
- ・一戸建てに住む回答者は，「何か困ったときに助け合う親しい人がいる」割合が比較的高く，マンションやアパート等に住む回答者は，「ほとんど付き合いはない」割合が比較的高い。
- ・近所づきあいの満足度は，『満足している』が約6割となっている。
- ・付き合いの密度と比例して，年代が高い方が男女ともに『満足している』割合は高い。
- ・付き合いの密度に比例して，一戸建てに住む回答者は満足度が比較的高く，マンションやアパート等に住む回答者は低い傾向がみられる。
- ・過去1年間における近所の人への協力を「したことがない」が過半数。
- ・近所の人への協力経験としては「声かけや安否確認」が約3割で最も高い。
- ・近所の人への協力経験として，高い年代では，男女を問わず「声かけや安否確認」の割合が高い。
- ・70歳以上の年代は約4割が『健康でない』という意識である一方，近所づきあいを通して，住民同士で健康状態を確認しあい，ともに助け合う状況にあることが伺える。
- ・近所の人への協力経験は，子どもを持つ世代の回答者（以下，「子育て世代」という）においては，「子どもの預かり」と「子育ての相談」の割合が高く，近所同士で子育てを助け合う状況が伺える。
- ・近所の人に対して今後協力できること，近所の人から協力してほしいことは，と

もに、「声かけや安否確認」が最も高い。

- ・今後協力できることと、現在協力していることは、高い年代では「声かけや安否確認」、子育て世代では「子どもの預かり」と「子育て相談」が高く、当事者同士が必要なことを協力し合う様子が分かる。
- ・今後協力できるという割合は、実際に協力している割合よりも高く、近所の人への協力意向が潜在化している可能性がある。
- ・「声かけや安否確認」については、60代以上は「今後協力できること」の割合で高く、70歳以上では「協力してほしいこと」の割合で高いなど、高い年代の中でも、比較的若い年代は協力する側、比較的高い年代は協力を受ける側に化する傾向がある。
- ・これらのことより、以下のことが伺える。

概ね、若い年代では近所同士のつながりが希薄になっている。

高い年代では比較的つながりが保たれている。

つながりが保たれている人々の間では、健康状態の相互確認や、育児の際の相互扶助がなされている。

住民同士のケアは、住民自身が周囲に対して「協力してほしい」と望んでいることでもあるし、住民自身が「自分が担える役割である」と考えていることでもある。

- ・住民の健康や福祉の充実には、住民同士のつながりが重要な要素であることから、つながりを保つような、あるいは再構築するような仕組みづくりを支援していくことが大切である。

3 地域で行われていることへの認知度と参加状況

- ・地域での助け合い、支え合い活動については、『参加している』が約3割、『参加していない』が過半数。
- ・地域での助け合い、支え合い活動については、「そのような活動があることを知らない」が約2割。
- ・地域での助け合い、支え合い活動への参加状況は高い年代の方が比較的高く、居住年数が長いほど高い。一方、単身世帯では参加状況は低い。
- ・地域での助け合い、支え合い活動への今後の参加意向については、『参加したい』が6割超となっている。
- ・地域での助け合い、支え合い活動については、参加意向が高いにも関わらず、実際の参加は低い状況である。
- ・この結果から、市民の意向を反映するような情報提供がきちんとできていない可

能性が示唆され、必要な人に必要な情報が届くような提供の方法を検討する必要がある。

- ・地域で行われている福祉活動については、「ふれあいネットワーク活動」と「ふれあいサロン活動」がともに約4割の認知度。
- ・「ふれあいネットワーク活動」、「ふれあいサロン活動」の参加状況はどちらも1割に満たない。
- ・「ふれあいネットワーク活動」、「ふれあいサロン活動」の認知度は男性より女性、若い年代より高い年代の方が高い。
- ・「ふれあいネットワーク活動」、「ふれあいサロン活動」の参加状況については、70歳以上で相対的に高い割合。
- ・近所との関係が強いほど「ふれあいネットワーク活動」、「ふれあいサロン活動」の認知度も参加状況も高い割合。女性や高い年代の方は近所関係が相対的に良好であったことから、地域で行われている取組みについて、近所同士のつながりが影響を与えていることが推察される。
- ・地域団体の認知度については、「シルバー人材センター」と「民生委員・児童委員」が8割前後。
- ・地域団体の利用状況はどの団体についても1割に満たない。
- ・地域団体の認知度は女性や高い年代の方が高い傾向。
- ・地域で行われている活動や地域に存在する団体については、認知度は高いものの参加及び利用状況が低いことから、今後は、活動や団体の対象となる人々の利用意欲を高め、参加が増えるよう、それぞれの層に適切な啓発活動を行っていく必要がある。
- ・近所同士のつながりが地域の福祉活動への参加や利用を高める可能性があることから、今後は、地域のネットワークが広がり、深まるような取組みが求められている。

4 悩みや不安

- ・悩みや不安については、「自分や家族の老後のこと」と「自分や家族の健康のこと」がともに約7割、「収入や家計など経済的なこと」が約6割。
- ・若い年代…経済的なこと、中間の年代…老後のこと、高い年代…健康のことが、悩みや不安として多く挙げられている。
- ・持ち家に住む人は老後のことと災害の対策を、賃貸住宅に住む人は経済的なことを悩みや不安として挙げる傾向がみられる。
- ・悩みや不安の相談相手は、「家族」が約8割、「友人・知人・同僚」が約6割。

- ・ 悩みや不安の相談相手として，行政が設けた公的な窓口の利用状況は低い。
- ・ 悩みや不安について，「相談しない」，「相談する相手がいない」という人も一定数あり，特に男性にその傾向が高い。
- ・ 高い年代ほど「かかりつけの病院」を相談相手とする傾向がみられる。
- ・ 近所づきあいに不満がある人ほど，相談相手が少ない傾向がみられる。
- ・ 健康や福祉に関する悩みや不安を抱える人が一定数いて，その悩みや不安は，それぞれの置かれた状況によって異なるため，多様な状況の中でどのような悩みや不安を持ち，何が不足しているのか見極めた上で，きめ細かい対応をとっていく必要がある。
- ・ 多様な相談内容に対応するためには公的な窓口が重要であるが，既存の窓口の利用状況は低いことから，利用を促進する取組みとして，公的な窓口に関しての情報を提供するとともに，公的窓口へ相談することへの心理的，身体的な障壁を取り除くために，開設時間や曜日，場所，メールなどの活用などの工夫が必要である。

5 行政に求められていること，行政サービスの認知状況

- ・ 「今後，福岡市が健康・医療・福祉の分野で力を入れて取り組むべき施策」は，「保健・福祉・医療に関する情報提供や案内の充実」と「高齢者・障がい者になっても自宅生活が続けられるサービスの充実」と回答した人がともに6割超。
- ・ 高い年代では「高齢者・障がい者になっても自宅生活が続けられるサービスの充実」の割合が高く，在宅ケアへの要望は特に高い。
- ・ 要介護者を施設でケアをしている人の場合は「保健・福祉・医療に関する情報提供や案内の充実」の割合が高い。
- ・ 要介護家族を家庭でケアしている人の場合は「高齢者や障がい者になっても自宅生活が続けられるサービスの充実」の割合が高い。
- ・ 健康・医療・福祉サービスの水準と税金のバランスについては，「負担は現状維持のまま，サービスの内容を見直すべきである」に約7割が集中。
- ・ 健康・医療・福祉サービスの水準と税金のバランスについて，「負担が増えても，サービスの維持・充実に努めるべきである」は約2割。
- ・ 健康・医療・福祉サービスの水準と税金のバランスについて，「負担が減るよう，サービスを縮小・廃止すべきである」は1割未満で，明確に負担の軽減を求める人は少数派である。
- ・ 非正規雇用で働く人では「負担は現状維持のまま，サービスの内容を見直すべきである」割合が高いなど，社会保険に加入しにくい雇用状況にある人では，負担を増やさないことを望む傾向がより強い。

- ・男性の30代から50代までの、いわゆる税金の負担が大きい年代では、他の年代よりもサービスの維持や充実を重視する傾向。
- ・ユニバーサルデザインの認知状況については、言葉を聞いたことがあるのみの人も含めると認知度は5割超。
- ・半数近くの人にはユニバーサルデザインという言葉すら認知されていない。
- ・ユニバーサルデザインの認知度は男性の方が高く、また、若い年代が比較的高い。

6 総括

- ・本調査からは、健康と福祉に関する人々のニーズは、それぞれの人々が置かれた状況によって大きく左右すること、また、ニーズを左右する因子の中には、人々が持つ近所同士のつながりといったものがあることが明らかになった。
- ・一方、健康と福祉に関してニーズのある人々に、市が行っている施策の全てが、必ずしも十分に利用されていない。
- ・人々が置かれた状況や人々が持つつながりを考慮しながら、より具体的できめの細かいサービスが提供できるような仕組みづくりを行っていく必要がある。